

酪農経営関係ヒアリング御協力者の概要

ニツ山牧場 代表 ^{よしざわ}吉澤 ^{かつじ}克次



- ・所在地 長野県南牧村
- ・就農年 1993 年 4 月
- ・労働人数 5 人（うち従業員 2 人）
- ・飼養頭数 132 頭（うち経産牛 97 頭）
- ・生乳生産量 728 トン/年（平均個体乳量 25.5kg/日）
- ・搾乳形態 パイプラインミルカー
- ・ICT 機器の活用 有（哺乳ロボット）
- ・外部支援組織等の活用 有
- ・平均除籍産次 4.1 産
- ・経営面積 (ha)

採草地	放牧地	青刈り とうもろこし
75	-	25

(トン)

年間給餌量の内訳	粗飼料	濃厚飼料
自給飼料量（ロール（牧草））	328.5	-
自給飼料量（青刈りとうもろこし サイレージ）	657	-
購入飼料量（配合飼料）	-	295

- ・経営の特色等

自給飼料を中心とした経営を行っており、地元野菜農家と作業の協力（牧草収穫・デントコーン収穫・堆肥散布・堆肥配達）を行っている。

また野菜農家の農閑期の副収入のため畑の開拓、牛舎改築、環境整備を毎年行い、周りを助け・助け合いながら共に成長をする「結」の精神で経営を行っております。



長野県南牧村 「ツワインヒルフィードギルド」 の耕畜連携による自給飼料生産の 取り組みについて

ギルド代表
ニツ山牧場 吉澤 克次

南牧村の概要

長野県東部 南佐久地域



全国トップクラスの高原野菜の産地



県下随一の酪農地帯

代表自己紹介（ニツ山牧場）



- ・ 名前 吉澤 克次
- ・ 年齢 48歳
- ・ 就農経過 酪農3代目
- ・ 経営規模 経産牛 100頭
飼料畑 約90ha

粗飼料自給率100%で低コスト酪農を目指す（長野県 ニツ山牧場）

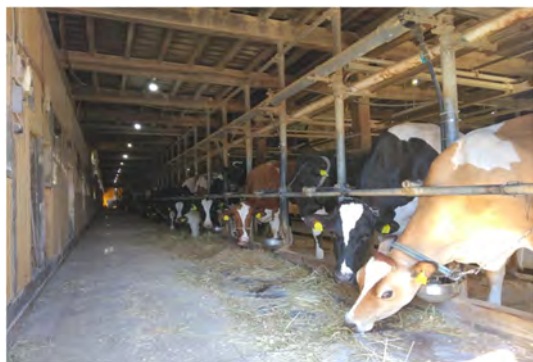
- ・牛の産次数を増やし、生涯乳量を増やすことにより、低コスト酪農を実現。
- ・国産飼料は輸入乾草のように品質が安定しないので、それを踏まえて利用。

組織の概要

- ◆ 経産牛 100頭、育成牛 35頭
- ◆ ツワインヒルフィードギルドの代表
- ◆ 草地はチモシーの混播だが、リードカナリーの生育が旺盛

<令和5年作付け状況>

品目	面積
牧草 (3回刈り)	75ha (225ha)
青刈りとうもろこし	22ha



取組の状況

- ◆ 当初は、濃厚飼料を多給し、平均乳量30 kg/日量以上の経営を行っていたが、牛への負担が大きかった。
- ◆ このため、飼養管理を見直し、5産どり、25 kg/日量を目安に牛群を管理。乾乳期間は、45～60日程度
- ◆ 初産牛は、搾乳期間を短めにし、搾り始めの乳量を抑えている。

取組のポイント

- ◆ 品質の安定しない自給牧草の給与に配慮して意識的に平均乳量を押さえているが、牛群の平均産歴が長くなることによる搾乳牛の更新コストの低減や飼料費の圧縮により経営は安定している。
- ◆ 天候の変化に即応した牧草の収穫は機械装備の充実と野菜農家と連携したコントラクターによる共同作業で対応。

ツワインヒルフィードギルド設立の経過

① 自給飼料の収穫作業や堆肥の散布作業の有償化

○従来は・・・

長年、自給飼料の収穫や堆肥散布などを親族間の協同作業（無償）で実施していたが、内実は、規模の小さい農家に不公平感があった。



○作業労賃の設定（時給で）

作業者が気持ちよく働ける環境を整備。



ツワインヒルフィードギルド設立の経過

② ニツ山牧場の自給飼料面積の拡大

○ 自給飼料の作付け面積拡大

購入飼料価格の高騰などを背景に、ニツ山牧場の自給飼料作付け面積の拡大や機械装備の拡充を進めた。



○ 親族以外の農家との連携拡大

面積拡大に伴う労働力不足を解消するため、親族以外の農家へも作業オペレータを依頼するなど、地域内の作業連携が進む。

